

教育目標「キラリ、桃里に輝く上保原っ子」

平成24年12月3日

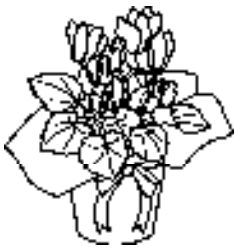
桃

里

伊達市立上保原小学校長 亀岡和美

児童数 1年36名 2年34名 3年40名 4年31名 5年54名 6年49名 計244名

～ 師走に入りました ～



1年の締めくくりの月、12月になりました。12月は師走と呼ばれています。語源は諸説あり正確なことは未詳ですが、

- ① 師匠の僧がお経をあげるために、東西を馳せる月とする説
- ② 「年が果てる」意味の「年果つ(としはつ)」が変化したとする説
- ③ 「四季の果てる月」を意味する「四極(しはつ)」からとする説

④ 「1年の最後になし終える」意味の「為果つ(しはつ)」からとする説等々があるようです。いずれにしても気ぜわしくあわただしい年の瀬であることには間違いありません。

学校でも、2学期が終了。12月は学習のまとめの時期となります。今までの学習の方法・内容・態度等を振り返って一人ひとりに基礎的基本的な学習内容の定着を図っていききたいと思います。

今月も本校教育へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



～ 火災に注意！住警器設置を！～

東日本大震災が発生したことにより、石油ストーブや練炭こたつなどが見直されているようです。昔ながらの知恵を学び大いに活用したいと思います。

火災は、物を焼いてしまうだけでなく人の命もうばってしまう恐ろしいものです。大人も子どもも火の取り扱いには十分留意しましょう。

住宅用火災警報器(住警器)は取り付けてありますか。平成16年の消防法改正により「寝室」「寝室がある階の階段」に取り付けることが義務付けられました。これは、①住宅火災による死亡者が平成15年以降連続で、1,000人を超えていること②死亡者の6割が65歳以上の高齢者であること③死亡原因の6割が逃げ遅れであるという3点の理由のためです。消防署の方々のお話を伺うと、設置状況はまだ不十分とのことでした。火事を出さないことはもちろんですが、万が一のために住警器を設置しましょう。そして、上保原地区から火災の発生がないよう火災予防に努めましょう。

まもなく冬季休業です。日中、子どもたちだけで過ごす場合があるかもしれません。暖房機などの火気取り扱いについて、子どもたちとルールを決めておくようにしてください。

～ 読書好きへの一歩 ～

夜の時間が長く、外で遊ぶことの少ないこの時期です。読書をしてみませんか。読書は、心を豊かにし、「言葉の数」を増やし、「読解力」を伸ばしてくれます。テレビやゲームと同じ時間、また、手軽に本に手が伸びるようにしたいものです。では、そのためにどんな環境づくりが必要でしょうか。



1 みんなが集まる場所に本棚を置く

子どもの本は子ども部屋へ・・・ではなく、みんなが集まる部屋に本棚を置きましょう。子どもに読ませたい本、家族が読んでいる本、お気に入りの本、地図帳、百科事典等々分類されていればどのような本でもかまいません。大人でも絵本を読んでもいいといわれています。本について共通の話題が出てくるようになればしめたもの。「どんなところが面白かった？」などと家族みんなで回し読みをしてもいいですね。

2 大人も本（活字・・・新聞、地図帳等）を読む。

なかなか大人は本を読む機会がありません。活字から離れていることも多いと思います。忙しい毎日ですが、短い時間でもページをめくる時間があればよいと思います。場合によっては、新聞や地図帳も活用できるのではないのでしょうか。報道された内容について、親子で地図を見ながら場所を確認する等ができると思います。その中で、「この漢字どう読むの?」「ここって行ったことある?」などという会話が弾むといいですね。もちろん、日本だけでなく、世界に目を向けさせることも可能になりますよね。

3 図書館を利用する

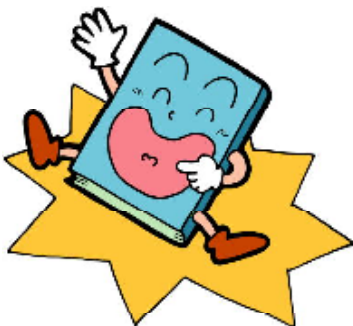
市の図書館等では、じっくり時間をとって本の内容を確認することができます。仮に面白くなくても、返却してまた別の本を借りることができます。図書館司書の方に相談することもできますし、ベストセラーの本なども借りることができます。大好きな本や著者に出合えたら素敵ですね。

4 予告編の活用

子どもに本のさわりの部分を読んであげると、続きが気になり興味を示すことがあります。映画の予告編と同じ効果があるものと思います。「次はどんなんだろう?」「もっと詳しく知りたい!」などという気もちにさせることができましたら大成功です。

5 映画が先か本が先か

映画やゲーム、テレビドラマ等からとった小説・物語などの本(原作)が出版されています。活字に抵抗を示す場合には、映画等の映像が先で、原作本が後でということでもよいと思います。



最終的には、何のために読むのか・・・ということです。第一は本好きな子どもにすることです。

保護者の方からは、大きい活字の本を読みたがる、学年不相応な本で困る・・・等々の意見をよく聞きます。字の大きさと本の内容は必ずしも同じではありません。どうぞ、お子さんの読んでいる本の評価をせず、感想をお話ししてください。感想はその本を読まないと言えません。お子さんの読んでいる本をお父さんやお母さんが読み、思いを共有することが大事なのです。